

平成 22 年度化学物質の内分泌かく乱作用に関するフィージビリティースタディー 公募要綱

1. 化学物質の内分泌かく乱作用に関するフィージビリティースタディーの実施

環境省では、平成 17 年 3 月に公表した「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について—ExTEND2005—」に基づき、基盤的研究及び野生生物の生物学的知見研究を推進してきました。

また、昨年度より ExTEND2005 におけるこれまでの取組状況をレビューするとともに、今後の進め方の方針の検討及び重点的に実施すべき課題の抽出を進め、「化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応—EXTEND2010—(案)」*を取りまとめ、パブリックコメントの手続きを実施したところです。

本年度も今後の新規研究課題の候補として、フィージビリティースタディーを公募します。フィージビリティースタディーでは、平成 22 年度研究計画承認後から平成 22 年度末までに、平成 23 年度以降の研究の実行可能性を検証することとなっております。

* <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=12504> の別添資料として公開中

① 研究内容

原則として、EXTEND2010 に即した研究であること。なお、ExTEND2005**も参照ください。

**<http://www.env.go.jp/chemi/end/extend2005/index.html>

※ なお、EXTEND2010 については、今後、修正が加わる可能性がありますので、御留意下さい

○ 野生生物の生物学的知見研究

野生生物において認められた個体(群)の変化やその前兆が異常か否かを評価し、その変化の原因及びメカニズムを把握するための考察研究を行うこととします。

今回公募を行う研究課題を以下に示します。

1) 野生生物における異変と化学物質ばく露の関連性を把握する研究

対象生物としては、生態毒性試験の対象生物種やその近縁種など、生態系に対するリスクの評価において要となる生物のほか、食物連鎖を通じて化学物質の蓄積が進みやすいほ乳類・鳥類などの高次捕食動物等を優先します。

○ 化学物質の内分泌かく乱作用に関する基盤的研究

今回公募を行う研究課題を以下に示します。

1) 個体(群)レベルのアプローチによる化学物質の内分泌かく乱作用のメカニズムに関する研究

化学物質が有する内分泌かく乱作用による個体(群)レベルでの毒性影響を

検出・同定するための技術開発に関する研究。試験動物種ごとに内分泌系が関与している生体調節機能(恒常性)、試験条件や個体差によるそれらの変動範囲等の基礎的知見を把握する研究、化学物質の内分泌かく乱作用の検出に活用できるバイオマーカーやエンドポイントの探索等。

2) 細胞・分子レベルのアプローチによる化学物質の内分泌かく乱作用のメカニズムに関する研究

化学物質が有する内分泌かく乱作用による毒性発現メカニズムの解明に関する実験的研究。遺伝子発現解析技術、タンパク質解析技術(プロテオミクス)、代謝物解析技術(メタボロミクス)などの有用技術を取り入れつつ、エピジェネティクスなども含めた化学物質の内分泌かく乱作用のメカニズムの解明に関する研究等。

3) 個体レベルでの有意な変化と細胞・分子レベルでの変化との関連性を把握する研究

4) 化学物質による内分泌かく乱作用を(既存の、または新たな)リスク評価及びリスク管理手法に組み込むことを目的とした研究

② 研究費の規模

1 課題当たり 400 万円程度(平成 22 年度)。

③ 採択予定課題数

野生生物の生物学的知見研究及び基盤的研究を合わせて、4 課題程度。

④ 研究期間

基盤的研究企画評価検討部会及び野生生物の生物学的知見検討部会による研究計画書承認後～平成 23 年 3 月 31 日。

⑤ 研究成果

今年度の研究進捗状況及び来年度の計画については基盤的研究企画評価検討部会及び野生生物の生物学的知見検討部会の研究成果合同ヒアリング(平成 23 年 3 月中旬東京にて開催予定。非公開。発表者 1 名分の旅費を支給いたします。)にて発表することとします。発表の内容について、基盤的研究企画評価検討部会及び野生生物の生物学的知見検討部会で審査を行い、実行可能性が高いと判断された研究については、基盤的研究又は野生生物の生物学的知見研究として平成 23 年度以降も研究を継続することが可能です。

2. 応募要件

① 提出物

1) 平成 22 年度 化学物質の内分泌かく乱作用に関するフェージビリティースタディー研究応募票(別紙 1)

(参考: 別紙 2 記載例)

なお、研究応募票には、応募した課題が「野生生物の生物学的知見研究」または「化学物質の内分泌かく乱作用に関する基盤的研究」のどの研究内容に対応す

るものかを記載してください(応募票に記載する欄があります)。

2) 研究概要を説明するパワーポイント資料(スライド6～8枚程度、発表時間として10分程度)

② 応募受付期間

平成22年6月18日(金)～7月20日(火)

③ 提出先

(事務局)

日本エヌ・ユー・エス株式会社

TRM ユニット 今関悠子 宛

E-mail : EXTEND@janus.co.jp

〒108-0022 東京都港区海岸 3-9-15 LOOP-X ビル8階

TEL : 03-5440-1852(代表)、FAX : 03-5440-1870

※ メールタイトルは「フィージビリティースタディー応募(所属・氏名)」としてください。また、メールの容量が2MBを超える場合は、パワーポイント資料をCD-Rに記録し郵送してください(7月20日(火)消印有効)。

3. 研究課題の採択

応募要件を満たした研究課題について、基盤的研究企画評価検討部会及び野生生物の生物学的知見検討部会の研究計画合同ヒアリング(平成22年8月上旬に東京にて開催予定。非公開。発表者1名分の旅費を支給いたします。)において審査を行います。その際、応募者には、この場でヒアリングを受けていただきます。ヒアリングの詳細については、別途メールにて連絡します。なお、応募者が参加出来ない場合には、代理人の参加も可能です。さらに、応募者多数の場合は、応募提出物をもとに一次選考を行います。

検討委員による審査の後、採択する研究課題を決定し、結果を応募者に通知します。

4. 研究課題採択後の流れ

検討委員による審査の後、採択された研究課題については、改めて、合同検討部会からの意見を踏まえた詳細な研究計画書及び詳細な見積書を提出し、基盤的研究企画評価検討部会及び野生生物の生物学的知見検討部会での承認の後、研究を開始することとなっています。

5. その他

平成22年度は、従来のExTEND2005に基づき、基盤的研究、野生生物の生物学的知見研究及びその他の関連研究として別添(別紙3)の研究課題が採択されています。

※ 別紙1～3 : 略